

人を支える心を育て、実際に活動する場を創っていきましょう

全日本社会貢献団体機構 会長

佐田 力



まずは、東日本大震災で犠牲となられた方々のご冥福を衷心よりお祈りいたしますとともに、被災され現在も避難されている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

日本を襲った未曾有の震災では、全日本遊技事業協同組合連合会のホール関係者を含め、多くの仲間たちが被害を受けました。もちろん人ごとではなく、日本全体が一丸となって対応しなければならないことと承知しております。復興に向けては長い道のりとなりますが、全日本社会貢献団体機構としても、被災地、被災者への支援を行っていきたいと考えております。詳細など決まり次第、ご案内させていただきます。

さて、私はこれまで、公益財団法人さわやか福祉財団の理事長として、「新しいふれあい社会の創造」をテーマに活動して参りました。超高齢、少子化社会を迎えた日本には、問題が山積しております。そうした中、人々が心豊かに安心して暮らせる社会を築くための根底には、人と人がふれあうことのできる社会の形成が必要になってきます。大切なことは他人へのいたわりの気持ちを育て、実際に活動できる場を職場や地域社会に創っていくことです。これは当機構の理念にも合致するものだと考えております。

以前はご支援いただく立場として当機構を拝見しておりました。全国の関係者の皆様が地道に社会貢献活動をされているのを知り、当機構の根幹の強さに感銘を覚えました。実際に汗を流したものは、現場の実態を的確につかむことができますし、問題点や解決の方向を提案していくことができます。実践に支えられたものであるからこそ、これだけの長きにわたって、活動を続けてこられたものと拝察いたします。

現在、日本の社会は激しく流動しており、求められる社会貢献活動の内容も、変化、進展しております。当機構の活動が、常に時代のニーズに的確に対応して進められますよう、私も、精一杯の努力をする所存であります。どうぞよろしくご協力、ご支援のほどお願い申し上げます。

社会貢献の心とノウハウを伝えていきましょう

全日本社会貢献団体機構 理事長

原田 賢



東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

また、この大震災により電気不足が深刻化し、業界にとりましては厳しい舵取りを強いられることとなります。ですが、遊技業は生活文化、娯楽文化として日本に根付いております。人の口を満たすのは経済ですが、心を満たすのは文化です。日常への回帰が復興の道でもあります。社会における使命はこれまで以上であるにとらえて進んでいきたいと思っております。

さて、今年も社会貢献活動年間報告書をお届けする時期となりました。全日本遊技事業協同組合連合会並びに関係者の皆様には、厳しい不況下にもかかわらず、日々のご努力を続けられ、また当機構の活動にご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

例年、顕彰事業の中で、皆様の活動を拝見しております。賞という性質上、審査で甲乙をつけますが、全ての取り組みを顕彰したいと感じております。ただひとつ皆様をお願いしたいことは、ぜひ自分たち自身も楽しんで行えるような工夫をして頂きたいということです。決まりだから行っているというのでは負担になってしまい、社会貢献の心を育てることにはなりません。末永く活動を続けていくためには、貢献の成果を知り、活動によって恩恵を受ける方々との交流も必要です。それによって、活動の本質への理解が深まり、新たなアイデアや、次なる挑戦への意欲も生まれてくるものだと思います。

また、助成事業に関しては年々認知度が高まり、応募申請数も増加の傾向にあります。それとともに私たちの活動への注目度も増し、地域や関連団体へ社会貢献活動の幅を広げていく好機となります。

これまでの活動を通じて、弱者の存在や今の社会の脆弱な面について、私たちは多くのことを学んできました。今後はそうした心とノウハウを社会に伝え、活用して頂くことも必要だと考えております。今後もよりよい社会のため、共に歩んでいきたいと考えております。